

■欧州：新型コロナによる電力市場への影響は長期化の可能性も

エネルギー情報誌は2020年4月24日、新型コロナによる欧州の電力市場への影響について、シンクタンクの分析結果を報じ、4月中旬に電力需要は下げ止まったが今後の影響が長期化する可能性があると伝えた。分析を行ったのは **Aurora Energy Research** で、欧州の電力市場について現状は需要が前年より10~20%減少し、卸電力価格は30~40%安価となっているとした上で、今後の電力市場について以下の通り予測している。2020~2021年にかけてはすべての電気事業者が影響を受けるとされ、収入の減少は事業内容によって30~50%に達する。石炭火力は既に発電量が減少しており、ガス火力も一部の国では稼働率が低下している。再生可能エネルギーも事業環境は困難となっており、固定価格買取制度など政府支援が受けられる事業への影響は限定されるが、市場取引で収益を確保する事業は最も影響を受けることになる。今回の新型コロナの影響は2008年のリーマンショックを越え、回復するのは2022年以降となる可能性がある。